

■まえがき

本書「合成桁の設計例と解説」は、昭和62年の発刊以来、鋼橋設計の入門書として永年にわたり多くの方々にご利用いただいておりますが、今般、平成29年11月の「道路橋示方書・同解説」の改定に合わせて、13年ぶり4度目の改訂を迎えることとなりました。

今回改定された道路橋示方書では、設計供用期間として100年を標準とすることが定められ、それを実現するため永年慣れ親しんできた許容応力度設計法から部分係数設計法へと大きな転換が図られました。また、設計に求められる要求性能が耐荷性能、耐久性能、その他性能（橋の使用目的と適合性を満足するために必要な検討その他）に大別され、耐荷性能については最大断面力を二つの限界状態で照査するなど、今までになかった新しい概念が導入されています。

本書は、これらを反映した改訂版であり、新しい道路橋示方書の理解を助けるとともに、旧版同様に鋼橋設計の入門書としてご活用頂きたいと願っております。また、本書に関してお気づきの点がありましたらご意見をいただければ幸いです。

なお、本書が参考として適用できるのは、単純活荷重合成桁の場合のみであり、その設計の一例を示したものです。実際の設計にあたっては、本設計例に示されていないことも含めて、必要となる事項について十分な検討をお願いする次第です。

設計小委員会 設計部会長 堀井 滋則

●設計小委員会

委員長 三宅 隆文（日本ファブテック）
副委員長 小西 日出幸（日本橋梁）

●設計部会

部会長 ○堀井 滋則（横河ブリッジ）
副部会長 ○金子 修（三井造船鉄構
エンジニアリング）

部会員 ○田中 一夫（川田工業）
〃 ○板垣 定範（駒井ハルテック）
〃 ○佐狐 真一（佐藤鉄工）
〃 ○佐藤 豪（JFEエンジニアリング）
〃 ○佐合 大（高田機工）
〃 ○種岡 慎二（瀧上工業）
〃 ○中嶋 浩之（巴コーポレーション）
〃 王 慶雲（日本車輛製造）
〃 ○渡邊 俊輔（エム・エムブリッジ）
〃 ○小林 裕輔（宮地エンジニアリング）
〃 西村 晃（IHIインフラシステム）
〃 前田 穰（大島造船所）
〃 野原 葵（川田工業）
〃 東 博年（駒井ハルテック）
〃 二葉 悟（高田機工）
〃 端本 勝介（日本ファブテック）
〃 中島 祐二（名村造船所）
〃 辻 丈彰（日立造船）
〃 藤森 豊和（北都鉄工）
〃 利根川太郎（横河住金ブリッジ）
〃 村本 裕樹（横河ブリッジ）

○印：改定WGメンバー